

# 家畜衛生情報（牛編）

家畜伝染病予防法が改正されました  
— 飼養衛生管理基準の見直しと早期通報の徹底 —

- ▶ 昨年の口蹄疫の発生を踏まえて、「発生の予防」と「早期の発見・通報」が徹底されるよう、家畜伝染病予防法が大きく見直されました。
- ▶ 家畜飼養者の皆様は、より具体的になった飼養衛生管理基準に基づいて、日頃の衛生管理を行うとともに、口蹄疫が疑われるような「特定の症状」があれば、獣医師または家畜保健衛生所へすぐに通報してください。

## 新しい飼養衛生管理基準のポイント

### 1. 最新情報の確認

家畜保健衛生所などの講習会への参加や農林水産省のホームページなどを通じて、伝染病の発生予防などに関する情報を積極的に把握しましょう。

### 2. 衛生管理区域の設定と消毒の徹底

畜舎とその周辺区域を衛生管理区域としてわかるようにした上で、この区域に出入りする車両、人及び物品は、必ず消毒（消毒に適さないものは洗浄で可）しましょう。

畜舎へ出入りする際には、靴の消毒と手指の洗浄又は消毒をしましょう。

### 3. 家畜の健康観察と早期通報

毎日、家畜の健康観察を行い、異状が確認されたら直ちに獣医師または家畜保健衛生所に通報しましょう。

農場へ立ち入った人や車両、導入した家畜の記録を取っておきましょう。

【家畜保健衛生所への届出が必要となる「特定の症状」の例】



泡沫性流ぜん（黒毛和種） 舌の水ほう（ホルスタイン種） 舌のびらん（黒毛和種）

39. 0度以上の発熱、流ぜん、口やひづめに水ほうやびらんなどがあれば、家畜保健衛生所へ届け出ることが義務化されました。

### 4. 悪性伝染病の発生に備えた埋却などの準備

埋却用の土地（焼却または化製処理でも可）を準備しておきましょう。

飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX 32-9019

E-mail: [c24508@pref.gifu.lg.jp](mailto:c24508@pref.gifu.lg.jp)



# 定期報告書のご提出をお願いします！

家畜伝染病予防法の改正により、所有者は家畜の飼養衛生管理の状況を都道府県へ報告することとなりました。添付の「定期報告書」のご提出をお願いします。

◆ 提出期限：12月15日

◆ 提出先：飛騨家畜保健衛生所

家畜保健衛生所が巡回し、法律改正のご説明をします。その際に提出してください。

## 注意事項

- 1 定期報告書は、農場ごとに、家畜の所有者（別に管理者がいる場合は、その者）が作成すること。
- 2 「管理者の氏名又は名称」欄及び「管理者の住所」欄には、家畜の所有者以外に管理者がある場合に記入すること。
- 3 家畜の飼養羽数は、10月1日時点のものを記入すること。  
同日前に家畜の出荷又は移動を行ったことにより、当該家畜の飼養頭羽数が通常よりも相当程度少ない場合にあっては、当該出荷又は移動を行った日の前日時点のものとする。

## 4 「家畜の種類及び頭羽数」の書き方

### 乳用雌牛を飼養している方



成牛：月齢が満24月～  
育成牛：月齢が満4月以上～満24月末満  
子牛：日齢が満10日以上～月齢が満4月末満  
※日齢が満10日未満の牛は含めない。

### 繁殖牛を飼養している方



成牛：月齢が満24月以上～  
育成牛：月齢が満4月以上～満24月末満  
子牛：月齢が満4月末満

### 肥育牛（和牛）を飼養している方

肥育後期の牛：月齢が満24月以上～  
肥育前期の牛：月齢が満9月以上～満24月末満  
育成牛：月齢が満4月以上～満9月末満  
子牛：月齢が満4月末満



### 肥育牛（乳用種の雄牛、交雑種）を飼養している方

肥育後期の牛：月齢が満17月以上～  
肥育前期の牛：月齢が満7月以上～満17月末満  
育成牛：月齢が満4月以上～満7月末満  
子牛：月齢が満4月末満

※その他（ ）の欄には、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、いのしし、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥及び七面鳥のうち、その種類ごとに該当するものを括弧内に記入の上、その頭数（羽数）を記入してください。

ご不明な点は、家畜保健衛生所にお問い合わせください